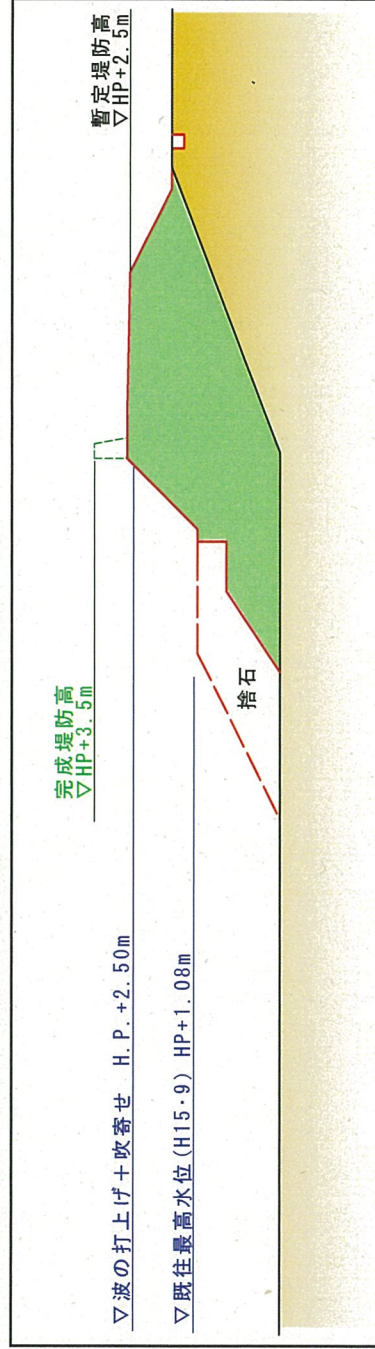


河川整備計画の確認について(中海湖岸堤)

○中海湖岸堤整備の優先度の基本的な考え方

優先度	基本的な考え方	延長
短期	湖岸堤高がH.P. +1.44m未満 (かつ背後地盤高H.P. +1.44m未満) であり、過去に越水による浸水実績がある若しくは背後資産の価値が極めて高い (H.P. +1.44m以下の地盤に100人以上居住) 箇所※境水道においては、堤防高が計画高水位又は既往最高水位 (波浪を考慮) 未満 (かつ背後地盤高が計画高水位未満) であり、過去に越水による浸水実績がある若しくは背後資産の価値が極めて高い (計画高水位以下の地盤に100人以上居住) 箇所	4.0km (0.0km)
短中期	湖岸堤高がH.P. +2.50m未満 (かつ背後地盤高が計画高水位+1.30m未満) であり、背後に家屋等がある箇所 ※境水道においては、堤防高が計画高水位又は既往最高水位 (波浪を考慮) 未満 (かつ背後地盤高が計画高水位未満) であり、背後に家屋等がある箇所	10.4km (0.3km)
中期	湖岸堤高及び背後地盤高がH.P. +2.50m未満の箇所 ※境水道においては、堤防高及び背後地盤高が計画高水位又は既往最高水位 (波浪を考慮) 未満の箇所	15.4km (0.0km)
全体		29.8km (0.3km)

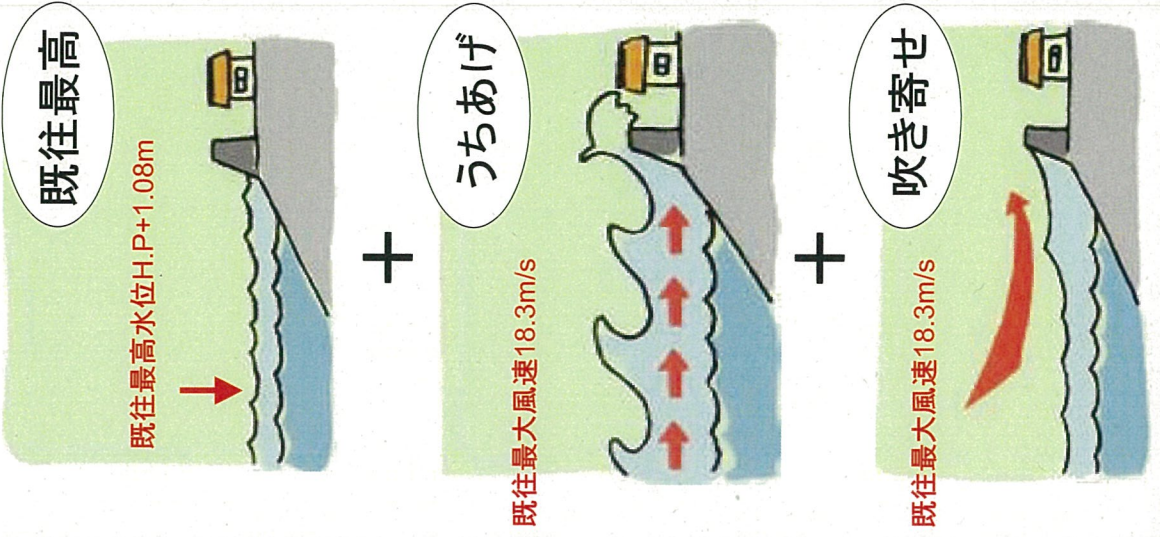
○中海湖岸堤の堤防整備イメージ(横断面図)



- ※ 詳細な施工延長及び堤防形状については、背後地の土地利用状況、湖岸の植生等の生物環境、景観、被害の状況、地域住民等の意見も踏まえ精査
- ※ 漁港施設・港湾施設については、施設管理者と協議の上、構造等を決定
- ※ 承水路等波の影響を受けない箇所については、計画堤防高をH.P. +2.10mとし、完成堤で整備
- ※ 支川の処理については、支川管理者と別途調整

湖岸堤高H.P.+2.50mとは？

既往最高水位(H15.9)のH.P.+1.08mに対し、中海のはん濫注意水位H.P.+0.9m以上で観測された最大風速18.3m/s(H16.9)により推計される最大の打上げ高



◆中海湖岸堤整備箇所一覽

